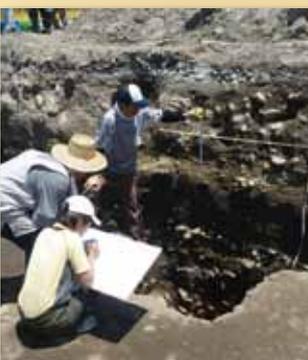


平成 24 年度 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

発掘調査速報会



平成 24 年 12 月 16 日 (日)

村山市総合文化複合施設 甌葉プラザ

主催 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

共催 村山市教育委員会



次第

開会 12:30

挨拶

平成24年度調査事業の概要説明

報告 12:45～

1) 清水西遺跡

2) 押出遺跡

3) 馳上遺跡

西谷地b遺跡

4) 蝉田遺跡

休憩・出土品見学

5) 八反遺跡

6) 山形城三の丸跡



閉会 15:20

平成24年度 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積 (4月当初)	起因事業
1 清水西遺跡	村山市名取	旧石器・縄文・古代	包蔵地	2,800㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
2 押出遺跡	第5次 高畠町大字深沼	縄文	集落跡	525㎡	国営かんがい排水事業
3 蝉田遺跡	村山市名取	古代	集落跡	6,000㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
4 馳上遺跡	第4次 米沢市大字川井	古墳～中世	集落跡	2,500㎡	東北中央道(米沢～米沢北間)
4 馳上遺跡	第5次 米沢市大字川井	古墳～中世	集落跡	3,068㎡	主要地方道米沢高畠線:川井IC
5 西谷地b遺跡	第3次				
6 八反遺跡	第2次 東根市大字長瀬	縄文・古墳～中世	集落・墓地跡	8,550㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
7 山形城 三の丸跡	第10次 山形市十日町	近世・近代	城館跡	900㎡	県保健福祉センター東棟(仮称)
	第11次 山形市城北町	古代～近世	城館跡	4,200㎡	国道112号霞城改良工事
	第12次 山形市大手町	近世・近代	城館跡	800㎡	山形法務総合庁舎新宮事業
8 蔵増宮田遺跡	天童市大字蔵増	古墳	集落跡	2230㎡	主要地方道天童大江線道路改築
9 森の原遺跡	第3次 村山市土生田	縄文・古代・中世	集落跡	2,000㎡	一般県道大石田土生田線:(仮称)大石田IC
10 田向2遺跡	第2次 村山市名取	古代	集落跡	2,300㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)

表紙写真 上:左(馳上遺跡・西谷地b遺跡出土下駄) 中(清水西遺跡出土石刃) 右(蔵増宮田遺跡出土土師器甕)
 中:左(馳上遺跡・西谷地b遺跡調査風景) 右(八反遺跡全景)
 下:左(清水西遺跡全景) 中(山形城三の丸跡第12次調査風景) 右(山形城三の丸跡第11次山形市立第七小学校遺跡見学)

し ず に し 清水西遺跡

— 県内でも古い段階の氷河期時代の遺跡 —

村 山 市

清水西遺跡は、山形盆地北端の小丘に立地し、上層で縄文時代・平安時代、下層で旧石器時代の遺構・遺物がみつかりました。

特に旧石器時代のものは、小丘の突端の調査区東側の山頂部^{ひじおり}で発見されました。石器は、下層上位の肘折火山灰（約1万年前に降下）の下の厚さ約20cmの黄色土（火山灰層^{けつがん}）から安定して出土しました。石器は、頁岩^{てつせき}製が多く、他に鉄石英^{てつせき}や黒曜石^{こくようせき}があります。

石器の種類としては、狩りなどに使われた、切り出しナイフに似た台形様石器^{だいけいよう}や、縦に長く鋭い刃部をもつ石刃^{せきじん}、それを素材とし刃潰し加工を施したナイフ形石器が多数出土し、他に石器を割った際の大小の剥片^{はくへん}・^{さいへん}・^{せきかく}・^{せきかく}、その残核（石核）も出土しました。なお表土から出土した木材加工用の局部磨製石斧^{せきふ}も形から同時代のものと考えられます。

一般に局部磨製石斧、台形様石器、ナイフ形石器の組み合わせは、後期旧石器時代の中でも前半期の特徴で、厚手のナイフ形石器の形態などは前半期でもやや新しい時期（約3万前頃）の可能性がります。この時期は、県内の歴史でも古い段階で、まだ遺跡数も非常に少ない時期にあたります。

今回の面的調査では、山頂部の直径約15～20mの円形の範囲に500点以上の石器が、



山頂部の石器出土状況。

幾つかのまとまりをもって出土しました。旧石器時代は、氷河期で気候が今より寒冷で、本遺跡の南・東の眼下には、当時湿地帯や湖水だった村山平野が広がり一望できたと思われます。本遺跡は、ナイフ形石器など狩り用の石器が多いことから、当時湿地に集まったナンマンゾウなど大型動物を追い、遊動生活だった旧石器人の狩りの際の拠点だったと考えられます。今後、土壌分析や石器の接合などの検討を要しますが、今回の調査で隣県の同時期の資料との比較が可能となり、当該期の貴重な資料になるものと思われます。

（植松暁彦）



ナイフ形石器の出土状況。



局部磨製石斧（左）・台形様石器（右）

当遺跡は前回までの調査でも大きな成果が得られています。地下 2.5 m の湿地に、特殊な構造をもつ住居群、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆土器や木胎漆器などを始めとする貴重な遺構・遺物の数々が発見されました。その重要性は、約 1,100 点の出土品が、国指定重要文化財となったことからもうかがえます。昨年行った第 4 次調査でも、住居 4 棟、窪地のほか、縄文土器、石器、木製品などが多数発見されました。

今回の調査では、住居跡は見つからず、調査区内には遺物の廃棄場所が広がってしま



環状耳飾りと小型磨製石斧

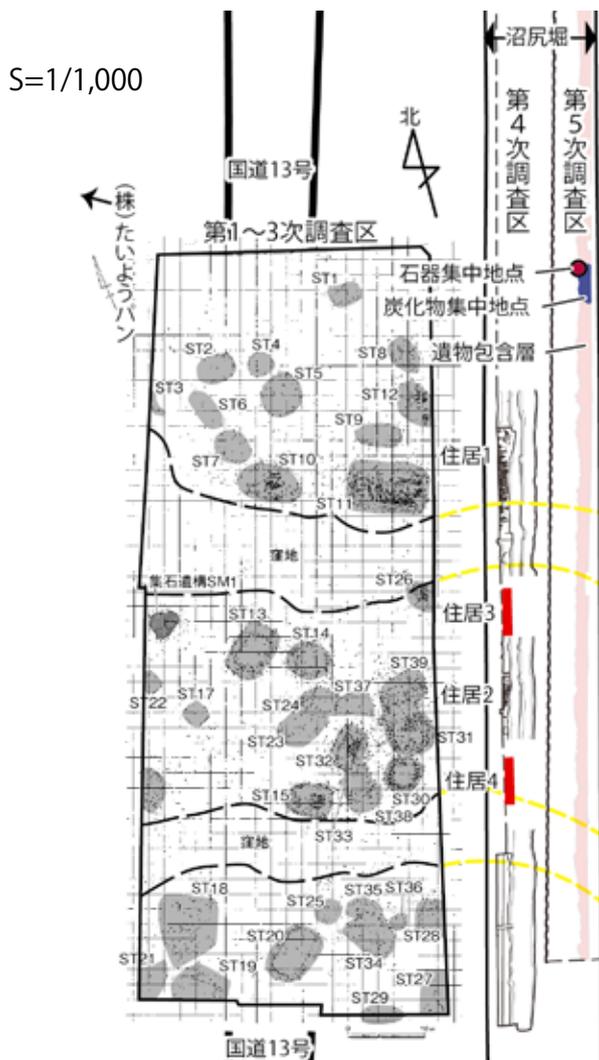
た。また、調査区の北側には炭化物集中地点、石器集中地点があります。集落の居住域から外れた場所であると考えられます。

出土遺物には縄文土器、石器、環状耳飾り、彩漆土器、木胎漆器、ヘラ状木製品、縄紐などが見つかりました。ほかにも多数の有機物が出土しており、今後行う分析により、さらに多くの情報が引き出せると考えられます。

調査では湿地に適応した暮らしぶりを示す遺構、遺物が見つかりました。それら多様な遺物から察すると、大きく栄えた集落であったと考えられるでしょう。なぜ湿地へ進出して集落を営んだのでしょうか。当時の気候や湿地で得られる様々な資源などを、広く検討していく必要があります。(水戸部秀樹)



小型の鉢形彩漆土器です。口の周りに孔が一周します。赤漆が塗られています。



1～3次の調査で 39 棟、4次で 4 棟の住居跡が見つかりましたが、今回は確認されませんでした。調査区には遺物の廃棄場所が広がっていました。

蝉田遺跡は、村山市名取地区西郷に位置します。周辺は沖積地で水田が広がっています。遺跡南西にある浮沼うきぬまという地名の通り、地盤が沼のように弱い場所に遺跡が立地しています。

本年度の調査では、主に平安時代の遺構・遺物が多く、また縄文時代・奈良時代・近世の遺物が僅かわずに見つかっています。遺構は掘立柱建物跡・柱列・河川跡・溝跡・土坑・柱穴等が見つかりました。その中でも、河川跡の調査成果が注目されます。

調査区内を東西方向に蛇行しながら流れる河川跡（SG 6）が見つかりました。川幅約5～8m、深さは最深部で約2mのとても大きな河川跡で、東から西に流れていたようです。堆積した土の層を観察すると、西暦915年に噴火した十和田火山の火山灰とみられる灰白色の堆積と、その火山灰が降灰した前後の時期に何度か流路を変え、水が流れていたことがわかりました。遺物は、土師器・須恵器等の土器と多種の木製品が大量に見つかりました。調査全体で100箱以上の遺物が見つかり、その2/3以上が本河川跡出土です。

土器は土師器の出土割合が高く、須恵器はごく僅かです。ほぼ壊れていない状態の土師器が約70点見つかりました。縁の部分が煤けており灯明具と考えられる土器や、「定」・「中」・「人」・「不」等と1文字のみ墨書された土器、また、内面または内外面共に黒色処理された土器が見つかりました。愛知県猿投窯で焼成されたとみられる灰釉陶器も僅かですが見つかりました。

木製品では、県内では希少な人や鳥の形を表現した形代・斎串等の祭祀具の出土が注目されます。この祭祀具は「祓い」という儀式

で使用されたと考えられています。穢れや罪を祓い流すという目的で、河川跡や溝跡、井戸跡等の水辺の遺構から見つかる傾向にあります。人形に類似した付札状ないし木筒状の木製品もあります。目視で観察する限り、文字は確認されません。他に刀形・剣形の武器を模倣した木製品、端部が焼かれた棒状・板状木製品があり、何らかの祭祀行為に関連する遺物だと考えられます。特に後者については本河川跡周辺に点在する焼土や炭が大量に混入した土坑で火を取り扱った行為との関連が想定されます。

祭祀具以外にも農耕具、容器、装飾品、建築部材など多種にわたる木製品があります。農耕具は鍬や横槌・木錐等、容器は木器、曲物、装飾品は檜扇・下駄・横櫛等があります。鍬は鍬先と柄がそれぞれ見つかり、全体像がわかる資料となっています。木錐は蓆等を編む際の錘です。檜扇は檜や杉の木を用い、5～8本の骨で1個体の扇を構成するようです（一重扇）。本調査では破損したものも含めると5本の骨が見つかり、1個体を構成する可能性があります。この檜扇と下駄は、田楽の儀式に用いられる道具と考えられています。建築部材は長さ約3.6m（2間）の丸材に加工されています。どのような構築物に利用されたかは不明です。多種にわたる木製品が確認されましたが、比較的針葉樹の杉材を利用した木製品が多いようです。広葉樹は僅かに確認される程度です。

本調査では、SG 6河川跡出土の木製祭祀具により、河川跡周辺での祭祀行為が想定されました。共に出土する土器の年代から、9世紀後半頃の祭祀行為と考えられます。

（吉田満）



SG 河川跡の土の堆積状況がわかります。
途中で、灰白色の十和田火山灰が堆積しています。



SK4 土坑です。
掘り下げると、一面炭が広がっています。



木製祭祀具（左：斎串、右：鳥形）です。
共に写真上部が頭部分に相当します。（縮尺は任意）



SG 6 河川跡が東西方向に流れています。写真奥の浮沼集落に続いているのでしょうか？

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の^{こうはいしっち}後背湿地上に立地する集落遺跡です。これまでの調査で、古墳時代と奈良・平安時代を中心とする生活の痕跡が確認され、北側には中世に属する遺構も少数ながら見ついています。とくに大型の建物跡が多く存在することや、^{すずり}硯・^{ぼくしよ}墨書土器など特殊な遺物が出土したことなどから、当時の役所に関連する遺跡の可能性など、一般的な農耕集落とは異なる性格を持っていたと考えられています。

今年度の調査では、西谷地b遺跡と隣接する遺跡範囲の北端が対象となり、^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居跡1棟・^{ほったてぼしらたてもの}掘立柱建物跡2棟のほか、溝跡・^{どこう}土坑・^{うねあと}柱穴・河川跡などが見つかりました。竪穴住居跡は一辺5.5mを測り、南側に煙り出しが付属します。住居跡の堆積は浅

く、また床面上にカマドの構築材料と考えられる粘土が散乱していたことから、上方が大きく削られるなど後世の攪乱が著しいものと分かります。攪乱を免れて残っていた土器の特徴から、奈良時代のはじめ頃（西暦700年代前半）の竪穴住居跡と考えられます。

掘立柱建物跡2棟のうち、調査区の西側で確認されたものは、柱穴の直径・深さが70cmほどもある大きなもので、奈良・平安時代に建てられたと考えられます。建物を構成する柱穴の1つからは、底面に墨書を施した高台付土器の破片が出土しています。

今回の調査によって、馳上遺跡と西谷地b遺跡の関係や遺構の分布傾向などがより一層明確なものになったと言えます。

（草野潤平）



馳上遺跡第4次調査区全体の^{ふかん}俯瞰写真です。写真中央に竪穴住居跡と1×2間の掘立柱建物跡、右側（西側）に1×3間の掘立柱建物跡が確認できるほか、小さな柱穴が多数見られます。また調査期間の後半には、写真上方（南側）の市道部分も調査し、溝跡や柱穴などが検出されました。

今年度は、東北中央道建設に伴う馳上遺跡第4次調査とは別に、追加インターチェンジ建設に伴う馳上遺跡第5次・西谷地b遺跡第3次調査も並行して行いました。調査区の大半は西谷地b遺跡の範囲にあたります。

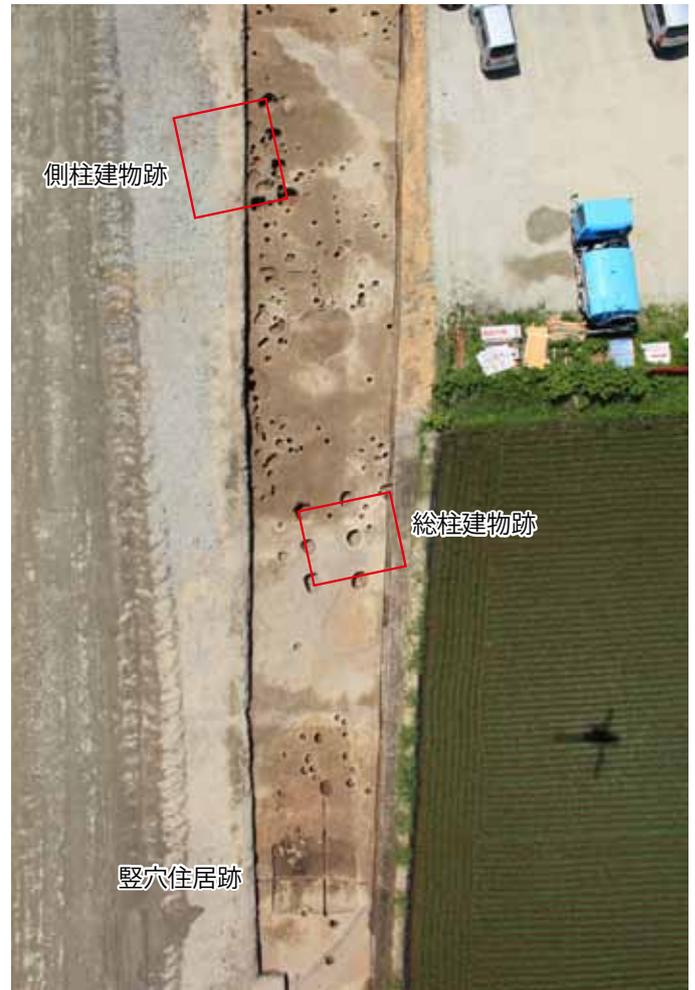
馳上遺跡の北側に連続する西谷地b遺跡は、南側では奈良・平安時代の遺構・遺物も目立ちますが、遺跡の中心時期は中世になります。平成21年度の第1次調査では、多数の柱穴群を環濠が取り囲む武家屋敷が確認され、さらに翌年の調査では伊達氏の家紋が入った漆塗り椀など、当時の暮らしぶりを伝える様々な遺物が見つかりました。遺跡範囲の南北を縦断する今回の調査区でも、古代・中世の遺構が数多く見つかりました。

竪穴住居跡は9棟確認されましたが、全形のわかるものは、西側の調査区で重なって見つかった2棟のみです。とくに小さい方の住居からは土師器甕など豊富な土器が出土し、奈良・平安時代に属することが分かります。

掘立柱建物跡は、倉庫と考えられる2×2間の総柱建物跡と3×3間の側柱建物跡で、ともに奈良・平安時代に属するものです。側柱建物跡の柱穴には、打ち欠いた黒色土器を柱穴の中ほどに水平に埋めたものもありました。建物を取り壊した後に柱を引き抜いて意図的に土器を埋納した痕跡と考えられます。

柱穴は他にも数多く見つかっており、とくに中世に属すると考えられる小型のものが目立ちます。これら柱穴群を区画するように走る溝跡も検出され、東側調査区の溝跡からは内耳土鍋や下駄など、過去の調査と同様の遺物が出土しました。今年度の調査成果を踏まえると、西谷地b遺跡の中世の遺構は遺跡範囲の北東側に中心があると考えられます。

(草野潤平)



南北に細長い西側追加インター部分の調査区です。写真の下方（北側）に竪穴住居跡、中央と上方の調査区壁面沿いに掘立柱建物跡が見えます。



竪穴住居跡の南側には新旧2つのカマドが確認されました。カマドの前からは、土圧で押し潰された土師器甕など多くの土器が出土しました。

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置しています。現在は果樹園や畑が広がり、周辺の水田より一段高くなっています。遺跡の周辺には、最上川の旧河道の痕跡が低地や水田として残されており、一帯が最上川の氾濫原はんらんげんだったことがわかります。

八反遺跡は長い期間存続した遺跡で、時代ごとに層をなして遺構や遺物が見つかります。第1面から中世後期、第2面から古墳時代～中世前期、第3面から縄文時代の遺構や遺物が見つかりました。

調査区を南北に分割し、昨年度は南側調査区の第1面、今年度は南側調査区の第2・3面、北側調査区の第1面の調査を実施しました。

昨年度の調査では、火葬遺構や石を集めた集石遺構などが多く見つかり、南側調査区の第1面は中世後期の墓地であったことがわかっています。今回、北側でも集石遺構や板

碑び（中世の供養塔）を捨てた土坑などが見つかっており、さらに北側にも墓地が広がるということが確認されました。

南側の調査区では、北半分の中世前期の遺構、南半分に古墳～平安時代の遺構が集中しています。

中世の遺構では調査区を縦横に走る大規模な溝が特徴的です。溝は幅約2m、深さ1m以上で、北側では直角に曲がる様子も確認できました。直角に曲がった溝の内側には多数の柱穴や井戸が見つかり、溝に囲まれた屋敷地の存在が想定できます。溝や井戸からは中世前期の遺物が出土しています。

調査区の南端部には最上川の支流と考えられる川の跡が見つかり、溝と河川跡が接続する部分では、溝が円形に広がり深く掘りくぼめられており、船着場のような施設があった可能性があります。その底面から



南側の調査区を北側上空から見た様子です。大規模な溝が縦横に掘られている様子がよくわかります。写真奥の河川跡に沿った小高い場所に多数の竪穴住居跡が重複して見つかりました。



出土した子持須恵器です（原寸大）。壺型須恵器の肩部分に装飾として付けられたと考えられます。

12世紀頃の遺物がまとまって出土しました。当時、この一帯にあった小田島荘という荘園との関連が想定できます。

河川跡に沿った小高い場所には古墳時代から平安時代の遺構が多く分布しています。特に川に近い場所には多くのたてあなじゆうきよ竪穴住居跡が重なって見つかり、同じ場所で何度も建て替えをしていたことが分かりました。竪穴住居跡は奈良時代初頭のもものが中心です。今年はお出羽国ができてからちょうど1300年になります。その頃の生活の様子を知る資料が多く出



溝と川との接続部の様子です（写真上）。須恵器系陶器甕、かわらけ、白磁皿、白磁碗など12世紀の遺物が出土しています（写真下）。



竪穴建物は底面から炭化した木材が見つかったもの（写真上）や、カマドを壊した後に須恵器の坏を伏せて置いたもの（写真下）などがあります。

土しています。

古墳時代は遺物が多く出土しますが、遺構は明確ではありません。

左上の写真は古墳時代の子持須恵器です。平安時代の竪穴住居跡から出土しました。通常は古墳の副葬品として出土することが多く、集落からの出土は稀です。東北地方でも数例しか出土例がなく、貴重な発見です。遺跡の約2km北側にある河島山古墳との関係も伺えます。

中世後期の墓地が見つかった第1面は、その大半が洪水による堆積と考えられるれき礫層で覆われていました。

最上川の氾濫と闘い、また川の恵みを受けながら、長い期間この場所に暮らしてきた人々の生活の様子が、今回の発掘調査によって明らかになってきました。

（高桑登）

山形城は、江戸時代のはじめに最上義光^{もがみよしあき}によって整備された平城^{ひらじろ}です。これまでに複数回の発掘調査が行われており、今回の調査は、かつての山形城の東端にあたり、城内と、城外に広がる七日町などの城下町とを堀と土塁によって分けていた場所になります。明治時代に山形城は廃城となり、堀や土塁は埋め立てられてしまいましたが、今回の調査によって、この堀跡を発見することができました。これまでも堀跡の調査は、数回行われてきましたが、これほど大規模に調査できたのは、今回が初めてとなります。

発見された堀跡は、約30mの調査区を南北に縦断し、幅は、調査区内だけでも10m以上あり、さらに東側へ広がります。深さは地表面からおおよそ5mもあり、堀には並行して土塁がつくられていたことを考えると、土塁の上から堀の底までは、相当の高低差があったことでしょう。堀は周辺の土砂の流れ込みなどによってゆっくりと埋まってきましたが、掘り直しなどの修繕工事は行われなかったようです。底面から2mほど埋まったところには、焼けた木材とともに大量の遺物が出土しており、火事の際に焼けてしまった



江戸時代の山形城の範囲。現在の霞城公園だけでなく駅前市街地一帯をも含む広大なものでした。

ものを堀に捨てていたことがわかりました。

出土遺物から、この火事は幕末から明治ごろのものと推測できます。遺物はお茶碗や皿などの食器類を中心に出土しており、同じ形同じ文様のものが大量に出土しているのが本遺跡の特徴といえます。他にも料理に使うすり鉢や鍋、お酒をいれる徳利^{どっくり}、お茶をいれる土瓶^{どびん}や急須^{きゅうす}などが出土し、当時の食生活をうかがうことができます。食器以外でも、たばこを吸うキセルや灰皿、化粧道具、植木鉢、下駄^{げた}などの生活道具も多数出土しており、これらから当時の人々のいきいきとした生活がよみがえってきます。(天本昌希)



堀の断面。地層をみることで、ゆっくり埋まった層から火事などで一気に埋められた層など、どのように堀が埋められていったがわかります。



堀の全景。堀の底や壁に大きな石が不規則に敷かれていたことがわかりました。

山形城三の丸跡の第 11 次調査は、三の丸跡北側の国道 112 号に沿った区域を、市街地の区画毎に五つの調査区（A～E 区）に分けて行いました。

遺構が確認出来る土の面からは、奈良・平安時代から近世・現代まで、各時代の遺構が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子がわかりました。

遺構が最も多く検出されたのは、東端の D 区で、奈良・平安時代の^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居跡が 4 棟、近世の^{そせき}礎石を持った建物跡 1 棟、その他に近世の溝跡や土坑が検出されました。竪穴住居跡は一辺が 4～6 m の方形で、深さが 10cm 程度でしたが、住居跡内（ST631）の土坑からは完全な形の^{つぎ}坏（皿）も出土しました。礎石を持った建物跡は、2 列に並んだ 8 基の穴で、ほぼ南北方向に約 2 m の間隔で 4 基が配列されており、東西の間隔は約 4 m ありました。柱穴の直径は 1～1.3 m で、穴の中には建物が沈まなように 30～50cm 大の平坦な石を^{いしづえ}礎として置いていました。

その他の調査区では、石を組んだ近世の井戸跡が計 7 基検出されました。掘り方部分は



多くの遺構が確認された D 調査区。東側に 2 列並んでいる柱穴の中には礎石が残っていました。

直径 3 m 程ありますが、石組み部分の直径は約 1 m で、深さは地表面から 3 m に達したものもありました。いずれも直径 30～50cm の大きな石の間に、小さな石を埋めてしっかりと組まれていました。井戸周辺の土が砂質であるため、崩落を防止するため設置したと考えられます。

遺物は陶器・磁器が多く出土しました。その中には、中国で焼かれた磁器や、今の愛知県で焼かれた陶器も出土しており、当時の交易の範囲がうかがえる資料となっています。

（小林圭一）



4 棟確認された竪穴住居跡の 1 つです。住居内北東の土坑から、内黒の土器が出土しました。奈良・平安時代頃のものと考えられます。



近世の井戸跡です。深さ約 2 m まで大小の石が緻密に組まれ、底には木材 4 本が方形に並べられていました。

山形城は市の中心部に位置し、三の丸を含めると東西約 1,580m、南北約 2,090 m、面積約 235 万㎡の広さを有する城でした。

今回の調査は、大手町にある山形法務総合庁舎の敷地で南側の駐車場部分について行いました。

東側を走る県道 18 号線に建立されている石碑や古地図から山形城の家老、水野家の屋敷があった場所で、その痕跡が見つかるのではと推測されました。しかし、今回の調査区は昭和 37 年頃まで建っていた山形刑務所の影響か、掘削が認められ、水野家の屋敷跡は削平されていることが確認されました。但し、地表面から 160～180cm 下から土坑や溝、ピットと考えられる遺構が見つかりました。古銭や骨などが出土したものもありますが、多くの遺構では遺物が出土しないことから時代や用途などは不明です。

遺物は、削平後に埋め立てた土から大量の瓦が出土し、中には元禄年間の山形城主だった堀田氏の家紋（木瓜紋）や火災除けとして描かれる巴紋がある瓦も出土しています。その他、土師質土器やかかわらけ、古銭、礎石、砥石、山形刑務所に関係すると思われ



近くに、山形城最後の城主水野家の家老（水野三郎右衛門元宣）屋敷があったことを示す石碑が立っています。奥のシート部分が調査区です。

る赤い煉瓦や碗、皿などの陶磁器もあります。また、底部に数字が線刻された様々な大きさの焼き台など、近世・近代の遺物が出土しました。

調査の結果、遺構については、山形城三の丸跡に関するものは少なかったものの、埋め立てた土から山形城や山形刑務所に関係する遺物が出土したことから、当時の、この周辺の人々の生活の一端をうかがい知ることができます。

（氏家信行）



土坑や溝跡、ピットと考えられる遺構が見つかりましたが、遺物の出土が少ないため、詳細は不明です。



柱穴から、永楽通宝が3枚重なって出土しました。全部で19枚の古銭が出土しています。

蔵増宮田遺跡は天童市西部の蔵増地区に所在する古墳時代中期の遺跡です。周辺は乱川扇状地と立谷川扇状地にはさまれた水田地帯で、国指定史跡西沼田遺跡や願正壇遺跡、蔵増押切遺跡、板橋2遺跡、的場遺跡など古墳時代の遺跡が集中する地域でもあります。

調査では、河川跡と土器が多数出土する地点を確認することができました。河川跡は浅い川と蛇行した深い川の2本です。土層の観察から浅い川が新しいことがわかりましたが、出土する土器には大きな時期差がないようなので深い川は急速な自然堆積により埋没した可能性があります。

深い川からは、鍬や鋤などの農耕工具の他、板状や杭状の加工材やそれらを加工したときに出たとみられる削り屑のような木材片などが出土しています。他に、杭で木材を固定した地点を数地点確認しました。

調査区西側には一段低い低湿地となっており、土器が多数出土しました。その状況から、ただ単に捨てられたのではなく、なんらかの祭祀などで意図的に置かれたものではないか



調査区全景。左手に蔵増集落が、右奥に天童市街地が見えます。(南西から)

と推測されます。

今回の調査では、建物跡など直接的な生活跡を確認することはできませんでした。しかし、河川跡から土器や木製品が出土したり、祭祀跡と見られる土器が多数出土する地点を確認するなど、極めて近い場所に人々の生活拠点があると推測されます。

出土した遺物はいずれも古墳時代中期のもので、板橋2遺跡や的場遺跡とほぼ同時期であり、最も距離が近い古墳時代後期の西沼田遺跡との直接的関係は認められませんでした。

(齋藤健)



深い川跡出土の木製鍬。
左側の刃の部分は欠損しています。(北西から)



土器集中地点。古墳時代中期の土器が集中して出土しました。(北西から)

森の原遺跡は、^{むらやま}村山市北部の^{とちうだ}土生田字道出^{みちで}にあります。遺跡から西約 1.2km 離れたところには、最上川が流れています。遺跡は、山形盆地の北端、最上川の三難所よりも下流に^{はんらんげん}広がる氾濫原の中、つまり最上川が増水したときに洪水が起こりやすいところに立地しています。今回の調査は、平成 22～23 年度(第 1 次・第 2 次)の調査区の東西に隣接し、インターチェンジを設置する 2 か所(1 区、および 2 区)、約 2,000㎡の調査となります。なお、平成 22 年度は、本線部分に沿って走る取り付け道路部分、そして平成 23 年度は、高速道路本線部分の調査となります。

2 区の北側では、黒色粘土(黒色の泥)が堆積した湿地跡が発見され、その湿地跡の縁にそって、径 10cm 前後の杭が約 30cm 間隔で打ち込まれている痕跡が確認されました。湿地跡からは、11 世紀後半、北宋で発行された^{げんゆうつうほう}「元祐通寶」という古銭^{こせん}が 1 点発見されました。また、2 区の中央部では、幅約 2m、深さ約 1m ほどの鍋底状の大きな土坑^{どこう}が 2 基発見されました。寒河江市高瀬山遺跡では、中世にあたる類似した形態の土坑が発見され、上記の湿地跡と古銭を考慮すれば、これらの大きな土坑は中世のものかもしれません。

2 区の北側の湿地跡の下には、少なくとも二時期の重なりが認められる小規模な河川跡が発見されました。新しい河川跡には、底部付近に 915 年に噴火したとされる、十和田火山^{かいほくしよくかざんばい}の灰白色火山灰(十和田 a)が確認されました。その火山灰層の直下からは、土師器片^{すえき} 1 点と須恵器片^{すゑき} 1 点が発見されました。古い河川跡からは、木片や種子以外に何も発見されませんでした。火山灰^{こうはい}が降灰する前にも、この地に最上川から発する小規模な河



調査区上空写真(左が北:上が1区、下が2区)



2区発見の湿地跡・杭列・河川跡(南から)

川が発達していたことがわかりました。

1 区の南側では、黒色土層の中から、縄文時代の終わり頃(晩期)に位置づけられる土器片や破損した磨製石斧^{ませいせきふ}など、多数の遺物がせまい範囲で分布しているのが発見されました。しかし、黒色土層の南側は河川で、北側は氾濫による泥流^{でいりゅう}や土石流^{どせきりゅう}で浸食されていました。遺物が分布している部分は、同じ個体と考えられる土器片が、一部が密集、あるいは数cm程度の距離で分布していることから、幸運にも浸食による影響が少なかったことがわかりました。2 区の南側でも、氾濫によって押し流されてきた可能性のある縄文土器のほか、珪質頁岩^{けいしつげつがん}製のカケラ^{せいさくとじょう}や製作途上の石器、そして玉髓^{ぎよくずい}製石鏃^{せきぞく}が出土しました。

(大場正善)

田向2遺跡は、村山市の河島山丘陵の南麓に広がる低地に立地する、平安時代の集落跡です。平成22年度に第1次調査が行われ、^{たてあなじゆうきよ} 竪穴住居跡1棟、井戸跡2基、溝跡などが確認されています。今回は第2次調査となり、^{ほったてばしらたてもの} 竪穴住居跡が1棟、掘立柱建物跡が4棟、溝跡1条、土坑が確認されました。

竪穴住居跡は、南北6.5m、東西4.1mの規模で平面は長形状です。一般的な住居よりもやや大形で、長方形はあまり見られない形です。南辺にはカマドを備えています。住居の床面からは、^{はじき} 両面を黒色にした土師器の^{つき} 坏や、土師器の^{かめ} 甕が出土しました。

掘立柱建物跡は、調査区北側を中心に建てられています。S B 36 掘立柱建物跡は、間取りが3×3間で、約8×8mの規模をもつ総柱建物です。すぐ東側には、やや規模が小さいS B 25 掘立柱建物跡があり、間取りは3×2間、7×4.8mの規模です。

この2棟の建物跡は、ちょうど建物の軸が東西にそろった配置となっており、同時期に建てられていた可能性が高いと考えられ、集落の中の主要な建物だったと考えられます。

S B 35の南側には、円形で直径約80cm



平安時代のSB36 掘立柱建物跡です。
3×3間の正方形の建物で、総柱になります。

の2基の土坑、S K 53・54が確認され、S K 54からは2点のほぼ完形の土師器の坏が出土しています。また、東西方向にのびるS D 60 溝跡には、多くの土師器や^{れき} 礫が捨てられていました。

出土した遺物は、土師器の坏・皿が多く、少量ながら^{すえき} 須恵器が出土しています。10世紀代の年代と考えられます。

村山地方では、平安時代終わり頃の集落の調査例はまだ少なく、この時期の村の様子が明らかになった貴重な事例といえます。

(菅原哲文)



ST68 竪穴住居跡は、南北方向に長い長形状で、南西隅にカマドを備えています。カマド周辺からは、煮炊きに使用された甕が出土しました。



ST54 土坑の土師器が出土した様子です。覆土は一度に埋め戻されたような状態であり、ほぼ完形の土師器坏が出土しています。

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡	山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史		
BC3000年	旧石器時代	<ul style="list-style-type: none"> ● 24年度発掘調査遺跡 上屋地 (飯豊町) ● 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 小国東山 (小国町) 	<ul style="list-style-type: none"> 弓張平B (西川町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町) 	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	<ul style="list-style-type: none"> 草創期 <ul style="list-style-type: none"> 日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町) 大立洞窟 (高島町) 早期 <ul style="list-style-type: none"> にひやく寺 (山形市) 北原4 (村山市) 前期 <ul style="list-style-type: none"> 高瀬山 (寒河江市) ● 押出 (高島町) 中期 <ul style="list-style-type: none"> 西ノ前 (舟形町) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 小平4 (酒田市) 高瀬山 (寒河江市) 今宿大谷地 (大石田町) 後期 <ul style="list-style-type: none"> 北原2 (村山市) 高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市) 晩期 <ul style="list-style-type: none"> 宮の前 (村山市) 作野 (村山市) ● 森の原 (村山市) 	<ul style="list-style-type: none"> いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市) 小林 (東根市) 吹浦 (遊佐町) 中川原C (新庄市) 西海湖 (村山市) 西向 (鶴岡市) 野新田 (鶴岡市) 熊ノ前 (山形市) 山居 (西川町) 小山崎 (遊佐町) かっぱ (最上町) 砂子田 (天童市) 下叶水 (小国町) 釜淵C (真空川町) 北柳1 (山形市) 	<ul style="list-style-type: none"> 隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める 堅穴住居による小集落が形成される 漆を使って文様を描いた土器がつけられる 計画的な大集落があらわれる 堅穴住居に複式炉が作られる 集落が減少する 中国製青銅刀がもたらされる 鳥海山が噴火する(前4466年) 	<ul style="list-style-type: none"> 弓矢がつかわれだす 土器づくりがはじまる 縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる 落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる 三内丸山遺跡が繁栄する 関東地方に貝塚があらわれる 配石遺構がさかんに作られる 亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる 	<ul style="list-style-type: none"> 農耕牧畜が起こる エーゲ文明始まる 楔形文字が使われる ピラミッドが作られる 殷王朝がおこる 孔子生誕 	
AD1年		弥生時代	<ul style="list-style-type: none"> 北柳1・2 (山形市) 百刈田 (南陽市) 	<ul style="list-style-type: none"> 生石2 (酒田市) 庚壇 (南陽市) 	<ul style="list-style-type: none"> 米づくりがはじまる 機械がはじまる 	<ul style="list-style-type: none"> 吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる 	<ul style="list-style-type: none"> アレクサンダー大王が生誕 ゲルマン民族大移動
300年		古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> 畑田 (鶴岡市) 玉作2 (鶴岡市) 鎌倉上 (米沢市) 馳上 (米沢市) 今塚 (山形市) ● 蔵増宮田 (天童市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高島町) 廻り屋 (白鷹町) 	<ul style="list-style-type: none"> 比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶塚塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤冶屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市) 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄製農具がつかわれだす 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる 小規模な古墳群がつけられる 大規模な集落があらわれる 	<ul style="list-style-type: none"> 須恵器がつけられだす 	<ul style="list-style-type: none"> 隋王朝がおこる マホメット生誕
600年			飛鳥時代	<ul style="list-style-type: none"> 北目古墳 (高島町) 安久津古墳群 (高島町) 	<ul style="list-style-type: none"> 羽山古墳 (高島町) 長手古墳 (米沢市) 	<ul style="list-style-type: none"> 出羽郡が建郡される(708年) 出羽欄が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽欄が秋田村高清水岡に移転する(733年) 	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平京城に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 純日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)
700年		奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> 二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町) 一ノ坪 (山形市) 	<ul style="list-style-type: none"> 牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市) 	<ul style="list-style-type: none"> 大地震がおきる(850年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡となる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 	<ul style="list-style-type: none"> カール大帝戴冠 楊貴妃が活躍 アラビアンナイト成立 	
800年			平安時代	<ul style="list-style-type: none"> 北原2 (村山市) 清水 (村山市) ● 馳上・西谷地b (米沢市) ● 森の原 (村山市) ● 八反 (東根市) ● 蟬田 (村山市) ● 田向2 (村山市) 沼袋 (東根市) 経塚森 (村山市) 松橋 (村山市) 沼田2 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市) 	<ul style="list-style-type: none"> 城輪櫓 (酒田市) 俵田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・旭ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三條 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市) 	<ul style="list-style-type: none"> 将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦はじまる(1051年) 後三年合戦はじまる(1083年) 中尊寺建立(1105年) 	<ul style="list-style-type: none"> 高麗王朝がおこる 宋王朝がおこる 十字軍の時代始まる
1200年	鎌倉時代	<ul style="list-style-type: none"> 升川 (遊佐町) 大桶 (遊佐町) 沼袋 (東根市) 執行坂窯 (鶴岡市) 	<ul style="list-style-type: none"> 長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市) 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年) 	<ul style="list-style-type: none"> マグナカルタ制定 チンギスハーン征西 ダンテが活躍 		
1400年	室町時代	<ul style="list-style-type: none"> 柳沢A (鶴岡市) 沼袋 (東根市) 小田島城 (東根市) 	<ul style="list-style-type: none"> 高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 	<ul style="list-style-type: none"> 斯波兼頼が山形へ入部 	<ul style="list-style-type: none"> 明王朝がおこる ルネサンス全盛 		
1500年		安土桃山時代	<ul style="list-style-type: none"> ● 八反 (東根市) 出張坂城 (鶴岡市) 木の下館 (鶴岡市) 山形城三の丸 (山形市) 稲荷山館 (米沢市) 	<ul style="list-style-type: none"> 館山北館 (米沢市) 大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 米沢城 (米沢市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 	<ul style="list-style-type: none"> 最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年) 	<ul style="list-style-type: none"> 種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年) 	<ul style="list-style-type: none"> マゼラン世界一周 ガリオが活躍
1600年	江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ● 山形城三の丸 (山形市) 新庄城 (新庄市) 双葉町 (山形市) 洪江 (山形市) 坂ノ上 (山形市) 	<ul style="list-style-type: none"> 鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三條 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 横軸橋 (西川町) 	<ul style="list-style-type: none"> 最上氏改易(1622年) 	<ul style="list-style-type: none"> 徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年) 	<ul style="list-style-type: none"> 清王朝がおこる アメリカ独立 フランス革命 リンカーンが活躍 	

